

会 議 録

1 会議名

令和3年度第13回安塚区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的審議事項

（1）住みやすい安塚の在り方について

○その他（公開）

3 開催日時

令和4年3月22日（火）午後6時から午後8時26分まで

4 開催場所

安塚コミュニティプラザ 3階 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：池田裕夫、池田康雄、石田ひとみ、小松光代、新保良一、中村真二、
外立正剛、秦克博、松苗正二、松野修、山岸重正、吉野誠一

・事務局：安塚区総合事務所 岩野所長、大島次長、石川市民生活・福祉グループ長（併
教育・文化グループ長）、村松班長、萬羽主任

8 発言の内容（要旨）

【大島次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【松苗正二会長】

- ・挨拶

【大島次長】

本日の会議録の確認は、内規により松苗正二会長にお願いする。

条例第8条第1項の規定により、松苗正二会長から議長を務めていただく。

【松苗正二会長】

それでは、次第3 自主的審議事項（1）住みやすい安塚の在り方について、から議事を進めていく。

3月8日（火）及び3月15日（火）に小委員会を開催し、アンケートの設問について、検討を行った。

資料として、アンケート用紙の案を事前に配布しており、皆さん目を通して思うが、何か意見等ある方はいるか。

【中村真二委員】

資料を見て感じたことを述べたい。まず、細かいことになるが、問1について、昨今の情勢を踏まえ、男性・女性以外の選択肢があってもいいのかなと思う。

次に、これから4月に市から地域協議会への説明がなされ、9月までに何かを地域協議会の方でまとめてもらいたいという市長の意向が表明された旨の記事を見た。その流れに沿って安塚区地域協議会も動いていかなければいけないと思う。このアンケートの冒頭の説明の部分にそのような内容を書いておいた方が、住民の皆さんの回答する気持ちも高まるのではないかと思うが、いかがか。

【松苗正二会長】

ほかに意見のある方はいるか。

【新保良一委員】

非常に細かく、良いアンケートを作っていたらと思うが、自主的審議事項のテーマが「住みやすい安塚の在り方について」であるので、アンケートの中にも住みやすいと思っているかどうかを問うような設問を入れた方がいいと感じた。現状の案では、住みにくいという気持ちが前面に出ている気がする。以前、山岸委員から、「私は、安塚区が住みやすいところであると思っている」との発言があったが、住民の皆さんの中にも同様の考えをお持ちの方がいるはずである。住みやすいかどうかをアンケートで聞いて、その回答から、皆が定住していけるような、あるいは新しい人が入って来てくれるようなまちにしていくための検討につなげることができればと思う。

また、アンケートは、20代から80代まで同じ内容を聞くのか。年齢で分けるのも難しいが、80代以上の方に聞くのはどうかなと思う設問も含まれているように感じたので、その辺りも審議してもらいたい。

【松苗正二会長】

ほかに意見のある方はいるか。

【池田康雄委員】

私は小委員会に参加して、検討させてもらったが、その後自分なりに改めて考えてみた。小委員会の中で吉野委員から、「設問は10問以上だと多すぎる」というような意見があり、私も多いように感じた。設問は問21まで、その後に自由意見という形であるが、問19から21までは一つずつの設問が非常にボリュームの大きいものになっている。実際、問19は21項目、問20は4項目、問21は12項目の内容を聞くものになっており、この3問で合計37問分のボリュームである。全体で55問くらいになるため、かなりの負担になると感じた。

また、問19について、分野・事業項目の文言が役所言葉のように感じる。例えば、自然豊かな環境保全という項目があるが、このような聞き方をしても、80代の方などは答えにくいのではないか。文言はこれでいいとしても、その後ろに括弧書きで例示した方がよいと思う。

【松苗正二会長】

ほかに意見のある方はいるか。

(意見なし)

それでは、今ほど3名の方から意見をいただいたので、順番に検討していく。

まず、中村委員から意見のあった問1の選択肢についてである。「1. 男性」、「2. 女性」のほかに3番目の選択肢をとということであるが、中村委員としては何か案があるのか。

【中村真二委員】

何か適切な表現があった気もするが、すぐに出てこない。資料を見ている中で先ほど気づいて発言したため、前もって調べていなかった。

【松苗正二会長】

個人的には、安塚区の住民を対象としたアンケートであるため、そこまでこだわらなくてよい気もするが。

【中村真二委員】

そうかもしれないが、世間的にはそういう方向性なのかなと思った。このような設問を見てストレスを感じる方もいるというような話も聞いたことがある。しかし、どうしてももう一つ選択肢を入れて欲しいということではない。

【松苗正二会長】

このことについては、また改めて検討することとしたい。

【中村真二委員】

お任せする。

【松苗正二会長】

次に市長から示された9月という期限について、中村委員から意見があったが、どうしてもその期限に合わせなければいけないということではない。安塚区地域協議会として、意見がきちんとまとまってから提出すればよいと思う。

【中村真二委員】

アンケートの冒頭の文章の中でそういうことに触れた方が住民の皆さんの回答する意欲も高まると思い、発言した。ありきたりなことしか書いていないと意欲も湧かないように感じた。市長が求めているものに向かって地域協議会も取組んでいると発信しておく、捉え方も変わるのではないか。

【松苗正二会長】

承知した。この点については、後ほど協議することとしたい。

次に新保委員から、自主的審議事項のテーマに合わせて、住みやすいと感じているかどうかを問う設問を入れた方がよいのではないかという意見があった。これについて、意見のある方はいるか。

【中村真二委員】

問17や問18がそれに近い設問であると思うが、テーマが「住みやすい安塚の在り方について」であるので、例えば、最初に住みやすいと思うかどうかを聞く設問を入れるのも一つの手法としてありだと思う。あるいは、最後の自由意見の前に入れてもよいかもしれない。メリハリが効いて面白い気もする。

【松苗正二会長】

ほかに意見のある方はいるか。

色々意見はあるかと思うが、先ほど池田康雄委員が言われたように設問のボリュームが大きすぎるとか、内容が難しいといった意見も出ているので、その辺りも含めて検討していきたい。

計21問の設問のうち、これは削っても問題ないのではないかというような意見を持っている方はいるか。

【池田裕夫委員】

私も小委員会に参加させてもらったが、先ほどの池田康雄委員の意見に同感である。問20の表記について、小委員会の時の内容から修正してもらってあるが、一つだけに

丸を付けてもらうためにもう少し工夫が必要であると感じている。この書き方であれば、回答1に対して、回答3や4の理由に丸をつけるという心配はなくなったが、一つだけに丸を付ければよいということをもう少し強調した方がよい。

また、問19については、項目の数が多すぎると思う。半分くらいに減らした方がよいのではないか。それだけでも全体のボリュームはだいぶ減ると思う。問21についても同様である。

【吉野誠一委員】

私は、全体的に設問の数が多すぎると思う。また、問19から問21までの3問については、回答を誘導している傾向が見られるので、削った方がよいのではないか。

【松苗正二会長】

ここまで皆さんの意見を伺ってきたが、実際に数名の住民の方からこのアンケート案に回答してもらったということである。事務局からその結果を報告してもらいたい。

【萬羽主任】

本日、集落の方に協力を得て、このアンケート案を基に3名から回答していただいた。回答者の年齢層は60代、70代、80代が1名ずつである。実際に回答してもらったところ、60代の方からはスムーズに回答していただくことができた。しかし、70代と80代の方については、回答に苦勞されている様子が見られたほか、集計不能になってしまうような回答があった。例えば問20である。問20は、回答を一つ選び、その選んだ回答について、当てはまる理由をさらに一つ選んでもらうという設問になっている。本日回答していただいたものを見ると、回答に複数丸を付けていたり、理由に複数丸を付けている方がおり、正確に集計できない状況であった。また、問19については、計21項目あり、丸が21個付くことになるが、一番上の行の「不満だ」という欄にのみ丸を付けている方もいた。

【村松班長】

そのほかに全体として設問の数が多いいということを皆さん言っていた。時間を測らせてもらったところ、自由意見の部分を除いても30分近くかかっていたため、自由意見も含めると相当な時間を費やすことになる。途中で考えるのが嫌になってしまう可能性もあり、もう少し設問の数が減るとよいとの感想もお聞きした。

【松苗正二会長】

今ほどの事務局からの報告を踏まえると、池田康雄委員からの意見にもあったとおり、設問の数が多く、皆さん回答するのに苦勞されているようである。やはり、もう少しボ

リ्यूームを落とした方がよいと思う。ここは削ってもよいとか、内容を修正した方がよいというような意見のある方はいるか。

【中村真二委員】

皆さんの意見を聞いていてなるほどなと思った。ボリュームを落とすということを考えると、問20については、回答のみに留めて理由は聞かない形にしたらどうか。その方が分かりやすいと思う。問19と21については、2問を統合したうえで、分野を列挙し、関心のあるもの全てに丸をつけてもらう程度のものにすれば、選びやすいと感じた。

【池田康雄委員】

私は、最後に自由意見の欄もあるため、問21自体を削ってはどうかと考えている。問20についても、答えるのが大変なように感じるので、もう少し簡潔にしてはどうか。問19については、先ほど述べたとおり、括弧書きで例示するなどの工夫が必要であると思うし、中には必要のない項目もあると思う。例示するというのは、例えば安心・安全な暮らしであれば、除雪対応や災害対応などという具合である。具体例を挙げた方が回答しやすい。

【松苗正二会長】

ほかに意見等あるか。

【吉野誠一委員】

問15と16については、「将来について、考えたことはありますか」という程度にして、一つにまとめた方がよいと思う。

また、問19については、我々が求める回答を催促したり、誘導しているように感じるので削った方がよいと思う。

問20については、その前に似たような内容の設問があるので、削ってよいと思う。

問21についても、削ってよいと思う。

【外立正剛委員】

私は、逆に問19から21までの3問を残すべきと考えている。これらの設問がないと、住民の皆さんの求めていることなどが分からなくなってしまうのではないかと。設問が多いと言うが、これくらいのボリュームがないと、皆さんが何を考えているのか、掴むことができない。我々がこのアンケートをとおして、何を導き出していきたいのかが重要である。なんでもかんでも削ってしまうと、あまり意味のない集計結果で終わってしまう。

また、住みやすい安塚の在り方については、問18によってある程度のものが見えてくると思うので、ストレートに聞くよりもこのような聞き方がよいと思う。

【池田康雄委員】

問18について、私は当初こんなことを聞いても、家があって引っ越すことができない方が大半であり、聞く必要がないと考えていた。しかし、名立まちづくり協議会のアンケート結果を見ると、26パーセントくらいの方が「できれば住み続けたくない」、「住み続けたくない」と回答していたようであり、これは決して無視してよい数字ではないと思う。安塚区でも興味深い数字が出てくるかもしれない。

【松苗正二会長】

ほかに意見等あるか。

【山岸重正委員】

吉野委員や池田康雄委員は、小委員会に参加しており、全体会議の場で全然違うことを言うのはよくないと思う。小委員会の場で意見を出し合って、案としてまとめたはずである。

【吉野誠一委員】

たたき台の案としてまとめたに過ぎない。

【山岸重正委員】

そうであれば、小委員会は次回からなくしてもらいたい。何の価値もないと思う。議事が全然進まない。初めから全体会で協議すればよい。

【松苗正二会長】

小委員会は、代表の方から出席してもらい、検討する場として設けたものである。全員が参加しているわけではなく、短時間の協議でもあったため、案として資料にまとめたものを基に再度全体会で協議する中で違う意見が出てきても差し支えない。全体会の中で決まったことを後で検討し直すのは難しいが、小委員会についてはそのように理解していただきたい。

【山岸重正委員】

それでは何の役にも立たない。私は、小委員会の中である程度のものをまとめたと思っている。それにも関わらず、小委員会のメンバーが全体会になって、あれは要らない、これは要らないと発言するのはおかしい。小委員会の中で発言してもらえれば、事前に検討することができたはずである。

【松苗正二会長】

山岸委員の意見はもっともであると思うが、実際に住民の方に回答してもらったところ、全体的に設問の数が多くて回答に時間がかかるといった状況が確認できたため、それらを踏まえて改めて検討をお願いしているというふうに理解していただきたい。

【山岸重正委員】

それは分かっているが、根本的にあれは要らない、これは要らないというふうに発言するのはおかしい。小委員会に参加していない委員が発言するのであれば、理解できるが、小委員会に参加した委員が自ら決めたことをひっくり返している。

【松苗正二会長】

小委員会で決めたわけではない。

【吉野誠一委員】

山岸委員は少し勘違いされているようである。小委員会というものの、実際は誰でも参加できる会であって、小委員会のメンバーで責任をもって決めるという会ではない。小委員会でまとめたたたき台を全体会にかけて、協議しているだけである。

【山岸重正委員】

それは分かっている。

【吉野誠一委員】

今はその流れで動いていると思う。

【山岸重正委員】

自分たちで決めたことを自ら変えていいのか。

【吉野誠一委員】

修正すべき点があれば、どんどん言って構わないと思う。

【松苗正二会長】

時間を置いてよく検討してみたら、やはりこうした方がよいという考えになったということであると思う。

【山岸重正委員】

承知した。

【新保良一委員】

設問が多いのもそうであるが、この地域は80代以上の方が非常にたくさんいる。そういう方々にとっては、こんなことを聞かれても分からないと感じるような設問が入っていると思う。

【松苗正二会長】

色々と意見がたくさん出ており、それぞれの内容について、本来であれば細かく議論をするべきであると思うが、この場でまとまらない場合には、また小委員会を開催して検討することとしたい。

問20については、回答のみに丸を付けることとして、理由は不要であるとの意見があったが、それでよろしいか。事務局からも報告があったとおり、理由にも丸を付けることとすると、適切な記載方法にならない場合も見られるようであり、回答に丸を付けるだけに留めておいた方がよいと感じる。

【吉野誠一委員】

設問数がこれだけ多いと、問15や16くらいまでくれば嫌になってしまうと思う。後になればなるほど、難しい問題も出てくる。

【松苗正二会長】

文章の表現の仕方など、細かい部分については、また後で検討してもよいので、まずは量的なものを検討したい。問20について、いかがか。

【外立正剛委員】

理由について、丸を付けなくても、理由を記載する欄はあった方がよいと思う。「関心がない」に丸を付けた場合、単純に興味がないのか、忙しくてできないのか、理由が全く分からないとそこで終わってしまう。理由を選ぶのが大変なのであれば、括弧書きで理由を書けるようにしておいた方がよい。

【松苗正二会長】

その点については、小委員会でも議論したと思うが、理由を記述式にすると大半の人が書かずに終わってしまうので、丸を付ける方法を採用したものである。しかし、それだと逆に複雑になってしまい、難しい判断である。

【中村真二委員】

今の外立委員の意見を聞いていて、そのとおりでと思った。問20までくると、頭の中が疲れてしまうと思うが、問20は理由も含めて2段階で回答する方式となっているため、頭がついていかなくなってしまうかもしれない。理由については、なかなか書かないかもしれないが、自由記述で記入欄を作っておけば、すっきりすると思う。

【松苗正二会長】

問20について、ほかに意見のある方はいるか。

【池田裕夫委員】

問20については、よい設問であると思う。理由もあった方がよいのであれば、問19と21について、存続も含めて検討したらどうか。そうすれば、問20については、表現をもう少し工夫したうえで、現状のまま理由も含めて回答する形でよい。それでも難しければ、設問の順番を入れ替えて前の方に持ってくるという方法もあると思う。

【松苗正二会長】

問20について、現状の形のまま残した方がよいと思う方は挙手をお願いしたい。

(挙手多数)

それでは、現状の形のまま残し、表現の方法と設問の順番を改めて検討することとする。

次に問19については、いかがか。池田康雄委員から、中学生や高齢者にとっては、項目の内容が難しいのではないかとの意見があった。

【山岸重正委員】

私は、住民の皆さんの考えを知るうえで問19あたりが一番良い設問であると思っている。文言を少し修正することとして、設問自体は残してもらいたい。

【松野修委員】

問19については、項目の文言を修正すればよいと思う。また、問21については、不要であると考えている。町内会や各団体から取り組んでほしい行事を聞いているが、既に取り組んでいることを羅列しているだけである。それに対して、取り組んでほしいかどうかを聞く必要はない。問19と21については、内容が被っているところもあるので、問21の内容を問19の中に上手く盛り込めればよいと思う。

【池田裕夫委員】

問19や21を最後の設問にして、オプションの設問扱いにしたらどうか。全員回答ではなく、回答できる場合は回答してくださいという感じである。集計するときには何パーセントの人が回答してくれたかということも結果として出る。疲れてしまった人は問18までで終了、可能な人は問19以降もお願いしますという形でもよいと思う。

【吉野誠一委員】

問19は内容が非常に複雑である。自然豊かな環境を守っていくべきと考えますか？、安心・安全な暮らしができていますか？というふうにこれだけで一つの設問になる。これだと回答を誘導することになってしまい、アンケートの体をなさなくなると私は思っている。

【松苗正二会長】

皆さんの意見を聞いたところ、問19と21については、内容が重複しているという意見もあった。しかし、個人的にこれらの設問はアンケートの中で核心を突く部分でもあるように思う。

【外立正剛委員】

この2問を削った場合、住みやすい安塚の在り方というテーマから外れてしまうと思う。どうしても入れてもらわなければならない。難しい表現があれば、そこを修正すればよい。この2問を削って、ほかの設問から安塚区が抱える問題点を導き出せるのか。最初に聞いてもいいと思うくらい、重要な設問である。高齢者でも回答できると思う。

【松苗正二会長】

私も外立委員の意見に同感である。池田康雄委員から指摘のあったとおり、生涯学習の推進とか、まちづくりを担う人材の育成といった難しい項目については、もう少し柔らかい表現に修正する必要がある。問19は残すべきであると思うが、問21については、同様の内容も含まれるので省いてもよいと感じている。皆さんの意見はいかがか。

【中村真二委員】

最初にも述べたが、問19と21を統合して、「関心があるものに丸を付けてください」という聞き方にすれば、分かりやすいと思う。これによって、どの分野に関心があるのかを把握することができる。松苗会長は問19を残すべきと言われたが、私はむしろ問21の方が分かりやすいと考えているので、問21に記載されている分野を軸にして統合した方がよいと思っている。問21の中に抜けているものがあれば、問19の内容から付け足すイメージである。問19を残した場合、生涯学習の話が先ほど出ていたが、問21には文化芸術活動という言葉があり、問19にはそれがない。どちらかと言えば、問21のジャンル分けの方がよいと思う。

【松苗正二会長】

問19と21について、まとめる方向でよいと考える方は挙手をお願いしたい。

(挙手多数)

それでは、一つにまとめることとするが、まとめ方はどのようにしたらよろしいか。

【吉野誠一委員】

小委員会で一度揉んだ方がよいと思う。

【松苗正二会長】

小委員会で検討した方がよいとの意見があったが、それでよろしいか。

（「はい」の声多数）

本日出た意見については、これで概ね検討が完了したが、設問数が多いとの意見が多かったので再度確認する。問4や問5について、必要であるかどうかを伺いたい。

【吉野誠一委員】

問4については、現在の健康状態を聞くものであり、65歳以上の方が健康であるかどうかを知ることは重要である。住みやすい安塚の在り方を考えるうえで必要な項目である。

【松苗正二会長】

承知した。それでは、問1から順番に皆さんの意見を聞いていきたい。

問1は必要と考えるか。

（「必要」の声多数）

問2はいかがか。

（「必要」の声多数）

問3はいかがか。

（「必要」の声多数）

問4はいかがか。

（「必要」の声多数）

問5はいかがか。

【中村真二委員】

これも残した方がよいのではないか。

【松苗正二会長】

全て残した方がよいのは確かである。検討した結果、削ることがないとなった場合はそれで仕方ない。改めて小委員会で検討してもよい。

【池田康雄委員】

この程度の設問であれば、頭を悩ませることもないと思う。問19や21とは異なる。

【外立正剛委員】

地域の一員であるという感覚は聞いた方がよいと思う。50代や60代の方は高い数字が出ると思うが、20代の方は違うかもしれない。そういった意識は把握しておきたい。

【池田康雄委員】

以前聞いた野澤前副市長の講話の中では、今の子どもたちは安塚区という意識が弱く、

上越市という意識の方が強いという話もあった。

【吉野誠一委員】

野澤前副市長は本当に子どもたちに聞いたのか。想像の話である気がしている。

【池田康雄委員】

そのような話をしていた。

【松野修委員】

選択肢で「非常に弱い」が最初に来ているのはどうなのか、逆ではないか。

【小松光代委員】

ほかの設問では、「健康だ」とか、「ゆとりがある」というような選択肢が最初に来ている。

【中村真二委員】

逆の方がいいかもしれない。

【松野修委員】

逆にしてもらった方がいいと思う。「わからない」は必要かどうか何とも言えないが。

【山岸重正委員】

「わからない」については、あまり必要性を感じない。

【松野修委員】

「どちらともいえない」と「わからない」の区別が難しい。

【池田康雄委員】

私は、「わからない」を残しておくべきだと思う。なんでも割り切って答えられるわけではない。

【小松光代委員】

「わからない」と「どちらともいえない」は片方だけでいいのではないか。

【吉野誠一委員】

「どちらともいえない」も「わからない」に含まれるのではないか。

【岩野所長】

これまでの協議をお聞きして、感じたことを述べさせていただきたい。

資料として配布されている案は、小委員会の中で必要だと思われる設問を挙げていただいたものと考えている。本日の協議により、皆さんの感じていることが概ね見えてきたのではないかと思う。設問が多いということと内容的に難しい設問があるということである。12名いるので、この設問が必要だと考える方もいれば、一方で不要であると

考える方もいると思う。ただ、総じて設問数が多いということは一致したと思われるので、これまでの意見を踏まえて今一度小委員会で整理するのがよいと考えている。私自身も少し設問数が多いと感じている。実際に本日サンプルで回答いただいた中でも、こちらが求める回答方法になっていない部分があったようである。問20については、事前に事務局で検討した内容と皆さんの意見とがほぼ同意見であった。回答1から4まで一つ丸を付けてもらい、理由は自由記述式にした方が分かりやすいということである。

それ以外に問19と21辺りは少し難しいなと思いながら、こういった形にしたらよいかという考えは出てこなかった。最初の説明をもう少しわかりやすいように変えるというのも一つの方法であると思う。

たくさん聞いて具体的な内容を回答してもらうに越したことはないが、このアンケートが最終的な答えになるわけではない。このアンケートを基に住民の皆さんと意見交換をするのが本番であり、それに向けて傾向を掴むことができれば、一つの成果と言えると思う。より具体的なことについては、意見交換の中で出していただければよいと思う。

【吉野誠一委員】

本日の協議の内容を基にもう一度小委員会で検討してはどうか。

【松苗正二会長】

本日の協議はここまでとして、小委員会でもう一度検討するということか。

【吉野誠一委員】

そうである。

【松苗正二会長】

吉野委員から提案があったが、それでよろしいか。

(「はい」の声多数)

それでは、小委員会で検討を行うこととする。

【中村真二委員】

一点だけお願いしたい。問16について、未来について考えるときにどの範囲まで考えるかという設問であるが、現在ウクライナで戦争が起こっている状況のため、「6. 世界」に丸を付ける人が多くなると思われる。情勢によって結果が変わってくる可能性があるなので、統計の情報として有益なのかどうか疑問に感じる。個人的には問16自体を削っても問題ないように思うが、こういう意味があってこの設問を入れたという意見があれば、教えてほしい。

【松苗正二会長】

これについて、意見のある方はいるか。

【吉野誠一委員】

問15と16は一つにまとめて、将来について考えたことがあるかないかを聞く程度でよいのではないか。先のことを見ている傾向があるかどうかを掴めれば十分である。

【松苗正二会長】

小委員会の中でもそのような意見があったので、これについても小委員会で再検討したいと思う。

それでは、皆さんから小委員会で再検討すべきとの意見があったので、小委員会で検討を行う。

【池田裕夫委員】

先ほどの岩野所長から話があった内容に関連して、私の意見を述べたい。このアンケートは、中学生以上の住民の皆さんを対象に実施するため、大変有効なものであると思っている。その後の意見交換会の参考にするという話もあったが、意見交換会はあくまで数名を対象に実施するものである。その意味では、アンケートは重要なものであるということを皆さんに今一度認識してもらいたい。

【松苗正二会長】

アンケートは大変重要なものであり、それを基にして皆さんの意見を聞くというのが前提になっている。アンケートの結果を皆さんと共有することが未来を考えることにもつながっていく。

それでは、小委員会を開催したいと思うが、いつがよろしいか。可能であれば、近々に開催したいと思っている。

【萬羽主任】

事務局側の都合で恐縮であるが、4月25日（月）頃にアンケート用紙の発送を予定しており、その前に印刷や文書の梱包等の作業が必要となるため、可能であれば小委員会を来週中に開催いただけるとありがたい。

【松苗正二会長】

事務局から依頼もあったが、来週であればいつがよろしいか。3月28日（月）から4月1日（金）までのどこかで開催したい。

【萬羽主任】

小委員会での検討後、全体会に諮る必要もあるので、できれば来週の早いうちに開催

いただきたい。

【吉野誠一委員】

私は今週でもよい。

【松苗正二会長】

今週はさすがに厳しいので、3月28日（月）でいかがか。

【松野修委員】

その日は都合が悪い。

【松苗正二会長】

それでは、3月29日（火）でよろしいか。

（「はい」の声多数）

時間は午後6時開始でよろしいか。

【吉野誠一委員】

もう雪の心配もないので、7時頃開始でお願いしたい。

【松苗正二会長】

吉野委員から意見があったが、何時開始がよろしいか。

【池田裕夫委員】

間をとって6時30分開始でどうか。

【松苗正二会長】

それでは、6時30分開始でよろしいか。

（「はい」の声多数）

次回の小委員会は6時30分開始とする。

【外立正剛委員】

次回の小委員会である程度内容を固めなければならないと思うが、時間的に余裕があるのであれば、もう1回くらい集まることはできないか。

【松苗正二会長】

3月29日（火）の協議の状況にもよるが、場合によっては追加で小委員会を開催することもあり得るというふうに考えていただきたい。できる限り3月29日（火）に固められるように進めていきたい。

【吉野誠一委員】

本日の協議によって、問題点がある程度出てきたと思うので、次回の小委員会でたたき台というよりも成案のような形にまとめて、それを後日全体会に諮るということによ

いと思う。

【松苗正二会長】

事務局からは、アンケート用紙の発送を4月25日（月）頃に行いたいとの話があったので、それに合わせるために次回の小委員会でまとめた案を基に進めていきたいと思うが、よろしいか。

【松野修委員】

小委員会での検討後、全体会に諮る必要があると思う。

【萬羽主任】

目標としては、3月29日（火）の小委員会の中で成案に近いものを固めていただき、その後に可能であれば4月の第2週のどこかで全体会を開催し、確定できるようにお願いしたい。

【松野修委員】

全体会の日をあらかじめ決めておけばスムーズに進むと思う。

【松苗正二会長】

それでは、3月29日（火）に小委員会を開催し、4月の第2週に全体会を開催したいと思うが、皆さんのご都合はいかがか。

【松野修委員】

4月5日（火）は都合が悪い。

【松苗正二会長】

それでは、4月4日（月）でよろしいか。

（「はい」の声多数）

時間は午後6時30分開始とするので、よろしくお願いしたい。

【村松班長】

3月29日（火）の小委員会のメンバーはどのようにするか。

【松苗正二会長】

前回参加したメンバーを基本としつつ、それ以外の方は自由参加ということでよろしいか。

（「はい」の声多数）

【中村真二委員】

4月4日（月）に全体会を開催するということだが、4月はその1回のみか。私個人の気持ちとしては、4月が1回のみで開催であれば、3月29日（火）の小委員会に参

加しようと思っている。

【松苗正二会長】

4月4日（月）の1回のみだと思ってもらってよい。

【村松班長】

4月の地域協議会の開催については、4月4日（月）以降にもう1回開催する可能性があるというふうにご承知おきいただきたい。

【松苗正二会長】

できる限り1回のみで進めたいと思っているが。

【吉野誠一委員】

諮問案件が出てくる可能性もある。

【村松班長】

4月中に協議いただきたい案件が出てくる可能性もある。

【松苗正二会長】

承知した。

ほかに意見等なければ、以上で自主的審議事項についての協議は終了する。

次に安塚区地域協議会としての審議内容について、確認を行う。事前に事務局へ審議依頼書の提出はあったか。

【大島次長】

事前の提出はない。

【松苗正二会長】

今回審議依頼書の提出はなしということで、審議依頼事項がある場合は、また次回協議会開催日の1週間前までに事務局へ提出をお願いしたい。

【吉野誠一委員】

時間がなくて今回出せなかったが、審議依頼書の件で一つお願いしたい。中学校の統合に関して、教育総務課長と直に会って話をした。私の方から、教育総務課として、安塚区の人たちが総じて賛成であるということをいつ、どのように把握するつもりかと尋ねたところ、それは条例上地域協議会の答申をもって行うとの話があった。審議依頼書を提出しようと思っていたが、今回は期限までに提出できなかった。4月以降、アンケートの集計が終わり、地域へ出て意見交換会を開催するにあたり、その他の事項として学校統合に関して住民の皆さんの意見を確認したい。諮問前に確認しておかないと、大変な責任を負わされることになると思う。

【松苗正二会長】

それはどのように行う形を想定しているか。

【吉野誠一委員】

自主的審議事項に関する意見交換会終了後、学校統合に賛成かどうか、意見を聞くようなイメージである。ある程度の意向を確認しておかないと、答申に関して判断できないと思う。

【松苗正二会長】

アンケートの中で聞くということか。

【吉野誠一委員】

アンケートではなく、地域へ出て意見交換会を開催するにあたり、その他の事項として聞いてみたいということである。新聞報道などで学校統合の問題が取り上げられているが、どうお考えかということを知りたい、ある程度の意向を確認しておかないと、責任ある答申を出せないと思っている。

【松苗正二会長】

学校統合に関しては、町内会長・自治会長合同会議において、意見交換を行っており、それに沿って我々も考えていくべきと思っている。

【吉野誠一委員】

それはどのような会か。責任をもって意思決定を行う会か。

【松苗正二会長】

学校統合に関する今後の取組の方針について、説明を受けるような場であったと思う。その中で何か決定するというのではない。保護者や地域住民等と今後意見交換を行いながら、これから検討を進めていくということであった。我々としても、それを尊重していくべきであると考えている。

【吉野誠一委員】

中学校統合というのは、非常に情緒的に教育という形で矮小化されて、説明がなされている。我々安塚区の一員としては、中学校統合は安塚区という地域の問題だと思っている。私が賛成だとか反対というのは別にして、地域住民の皆さんがどのように考えているか、把握すべきである。保護者が言っているからそれでいいという問題ではない。最終的には、地域協議会が答申という形で条例に基づいて安塚区の意思を決定するのである。大変責任のある立場であるので、自主的審議事項に関する意見交換会の際などに意見を聞かないと判断できないと思い、申し上げた次第である。

【松苗正二会長】

それは、諮問を受けてから検討すればよいのではないか。

【吉野誠一委員】

諮問を受けた後、地域へ出て意見を聞く機会があるのか。

【松苗正二会長】

地域の意見については、諮問の際に教育総務課から資料として示されるのではないか。

【吉野誠一委員】

安塚区が全体として大方賛成しているとか、反対しているということをいつ、どのような方法で把握するのか教育総務課へ尋ねたところ、それはしないということであった。最終的には、地域協議会が条例に基づいて意思決定をすることになるというような返事であった。

【松苗正二会長】

地域協議会に決定する権限はない気がするが。

【吉野誠一委員】

条例を読んでもらえれば分かると思うが、学校統合に関して諮問がなされ、その答えを答申として出すのである。それが条例上安塚区の意思決定となる。

【岩野所長】

確かに最終的に市から地域協議会へ諮問がなされ、それに対して答申を出していただくことになる。支障ありとの答申がなされれば、市はその答申を尊重し、再度検討する必要が出てくる。

この学校統合の動きは、大島区、浦川原区、安塚区の保護者の皆さんからの意見をきっかけとして、教育総務課も動き始めたものである。教育総務課としても、地域の皆さんから同意を得たうえで統合に向けて進んでいこうとの考えを持ち、各地域の住民の皆さんに説明をさせていただいているところである。

まず、地域協議会に対して、昨年地域協議会の会議の際に取組の方針案等を説明させていただいた。その後、町内会長・自治会長の皆さんや小学校・中学校の学校運営協議会の方にも説明させていただき、先日住民の皆さんに説明を行ったところである。町内会長・自治会長合同会議で反対される方はおらず、方針案に沿って進めてくださいというような感じであった。学校運営協議会では、吉野委員が中学校の会長をされており、ご意見をいただいたようであるが、そのほかの方からは意見がなかった。最後に地域住民の皆さんに周知をしたうえでお集まりいただいて説明を行ったが、安塚区での参加者は6

名ほどであった。学校統合に関する今後の取組等について説明を行うとご案内した結果の人数であり、方針案に沿って進めていきたいと考えている。

地域住民の皆さんから同意をどのようにいただくかについては、ご意見もいただいております、教育総務課の方で現在検討しているところである。現状の方針案に沿って取組を進めていきたいという考えに変わりはないと思われる。ただ、いただいたご意見に対して、どのように回答するかは現在検討している最中である。

【吉野誠一委員】

そこではなく、地域協議会が答申を出すということは、区的意思決定であるという理解でよろしいか。

【岩野所長】

それは各地域協議会の考え方にもよると思う。地域協議会が支障なしと考えるのであれば、その時点で答申を出していただいて構わないと思うし、それだけでは不足だということであれば、地域へ出て住民の皆さんの声を聞いてから答申を出すというのも一つの方法である。その判断は地域協議会の中で検討いただきたい。

【松苗正二会長】

今ほど吉野委員からアンケートの中で学校統合に関しての考えを聞きたいとの意見があった。

【吉野誠一委員】

アンケートではない。アンケートを集計し、地域へ出て意見交換会を開催する際にその他の事項として学校統合に関して住民の皆さんの考えを聞きたいということである。そこで大体のトレンドを確認しておかないと、答申の際に判断する材料がないので、お願いしている。

【山岸重正委員】

私は保護者の皆さんの考えが重要であると考えている。保護者の皆さんから出た意見以上のものはあまりないのではないか。地域として中学校を失くしたくないという気持ちはみんな持っていると思うが、保護者の意見を尊重して進めていくのが道理であると感じている。

【松野修委員】

皆さんの意見を聞くのはよいと思う。

【山岸重正委員】

聞いてはいけないと言っているわけではない。

【岩野所長】

学校統合に限らず、色々な案件で地域協議会へ諮問が行われる。今回、住民の皆さんの意思を尊重するため、意見を聞きに行くとなると、今後も同様の対応をすべきという考え方もあり得る。その辺りも含めて検討をお願いしたい。

【吉野誠一委員】

今回はたまたま地域へ出て意見交換をする機会があるため、そこで話を聞いてトレンドを確認したいと思っただけである。

【松苗正二会長】

地域へ出て学校統合に関する意見を聞いた方がよいと考える方は挙手をお願いしたい。

【池田裕夫委員】

吉野委員が言っていることはそうではないと思う。このアンケートを集計し、自主的審議事項に関して意見交換会を開催する際に意見を聞きたいということではないか。学校統合のために地域へ出て意見を聞くわけではない。

【岩野所長】

私からも確認させていただきたい。アンケートを集計し、自主的審議事項に関する意見交換を開催する際に話を聞きたいということによろしいか。

【吉野誠一委員】

そうである。せつかくの機会であるから、その時に聞きたいと思った。

【岩野所長】

学校統合に関してもそこで意見を聞いた方がよいと考えるのか、保護者の考えを尊重して別途意見を聞く必要はないと考えるのか、協議のうえ決定していただければよい。

【松苗正二会長】

意見交換会の中でということか。

【岩野所長】

意見交換会が終わった後というイメージであると思う。

【吉野誠一委員】

意見交換会という機会を使って、最後にその他の事項として意見を聞きたい。

【岩野所長】

アンケートの集計後、意見交換会の開催が予定されている。意見交換会の開催方法については、今後検討することになるが、一箇所に多くの人を集めて意見交換をするのか、いくつかのブロックに分けて意見交換をするのか、方法は色々と考えられる。住みやす

い安塚の在り方という自主的審議事項に関する意見交換が終わった後、その他の事項として中学校統合についての意見を聞いてはどうかという提案であると思う。

【吉野誠一委員】

先ほどからそのように申し上げている。

【松苗正二会長】

意見交換会の後、その他の事項として学校統合に関しての意見を聞いた方がよいと考える方は挙手をお願いしたい。

(挙手多数)

それでは、意見交換会の後、その他の事項として学校統合に関しての意見を聞くということでもよろしくをお願いしたい。

【岩野所長】

一点だけお願いしたい。そこでご意見として聞いたことは、諮問が来るまでは胸に納めておいていただきたいと思う。

【吉野誠一委員】

先ほどから述べているとおり、我々はトレンドを確認したうえで諮問に備えたいということである。

【岩野所長】

承知した。

【池田康雄委員】

統合は2年後というようなスケジュール案が示されている。

【岩野所長】

板倉区の小学校が少し前に統合されており、それを参考に今の3区の状況に当てはめると2年ほどかかるという見込みである。

【池田康雄委員】

市からの諮問はいつ頃の予定か。

【岩野所長】

令和4年9月か10月頃の予定である。

【新保良一委員】

地域へ出て皆さんの意見を聞くのは大切なことであるが、先ほど山岸委員から言われたように一番重視すべきなのは保護者の考え方であると思っている。

【松苗正二会長】

先ほどの協議の結果、意見を聞くことは決定したが、新保委員が言われたように保護者等の意見を尊重すべきというふうに各委員の中で思っていたらよい。

【吉野誠一委員】

地域の要望に応じて対応するということが合併協議の決定事項の中にある。保護者の意見をもって地域の要望とするのは、拡大解釈し過ぎであると思っている。今年の安塚中学3年生は6人の学級であるが、その中で高田高等学校に2名、高田北城高等学校に1名進学しており、これほど優秀な学校は市内でほかにはない。保護者に対して、皆さん進学が心配であると言われるが、大変優秀な学校であるということを伝えたと、そのような内容は聞いておらず、単にアンケートに答えただけであるという話があった。

【新保良一委員】

どういうふうにかかれていたのか。

【吉野誠一委員】

アンケートの中までは見ていないが、進学について心配であるという意見が挙げられていた。

【新保良一委員】

先日、学校統合に関して説明を受けた際の資料では、大人数の中で切磋琢磨して学力を伸ばし、人間関係を育んでもらいたいなどの理由から統合を求める意見がたくさんあったと思う。

【吉野誠一委員】

私が話を聞いた限りでは、学校の事情について、自分たちがそんなに学力の高い学校にいるとは思わなかったという保護者の方が2名いた。

【新保良一委員】

それは2名だけの話である。

【吉野誠一委員】

6名中2名である。教育の問題のみで捉えがちだが、行政と文教のまちとしての歴史を持つ安塚区では、地域の問題として捉えるべきである。地域へのケアも同時進行に進めてもらわないと困るという意見を教育総務課へ伝えたこともあったが、明確な回答はなかった。教育総務課に後日話を聞いたところ、最終的には地域協議会が意思決定を行うということであった。条例を見ると、確かにそうなっている。

【新保良一委員】

保護者の方に改めてそういう話を伝えればよいのではないか。

【吉野誠一委員】

ここまで話が進んでしまえば、巻き戻すことなんてできない。そのことだけをもって、取組を進めるのではなく、地域の問題として、地域へのケアも含めて示してほしいという事を申し上げた。

要するに保護者がこう思っているからということだけで、進んでよいのかということである。我々は最後に責任を持って答申を出さなければならず、せつかく地域へ出て意見交換をする機会があるので、ある程度のトレンドを確認しておく必要があると考え、提案しただけである。

【新保良一委員】

意見を聞くこと自体には賛成している。しかし、地域のために保護者を犠牲にしてはいけないとも思う。

【吉野誠一委員】

保護者のために地域が犠牲になれということか。

【新保良一委員】

そうではない。ただ、子どもの教育については、その保護者が最も切実に考えている事項であるので、その意見を尊重しながら話し合ってもらいたいということである。

【吉野誠一委員】

保護者は全体の中の一部であり、一般の住民の気持ちも大切である。

【新保良一委員】

もちろん大切である。

【池田裕夫委員】

保護者というが、その当時の保護者であって、3年経てば保護者ではなくなる。保護者はどんどん変わっていく。

【新保良一委員】

承知している。

【池田裕夫委員】

今の保護者に聞いてもあまり意味がないと思っている。

【松苗正二会長】

学校統合の問題は、保護者からの意見をきっかけに始まっているが、保護者の皆さん

は将来のことも考えたうえで意見を出されたものと思っている。今の状況が続いた場合、この中で子どもたちが育っていくのは忍びないという考えを持ったため、意見を出されたはずである。取組の方針の根幹はそこにある。人数が少なくなってしまう、なんとかしてもらいたいという意見が集まり、現在の取組につながっている。保護者だけの問題ではない。

【吉野誠一委員】

それ以前の保護者のアンケートでは、安塚区で小中一貫校として残してほしいという意見が結構強かった。その後に実施したアンケートでは、状況が変わっており、移り変わりはあると思う。

【松苗正二会長】

意見交換会の後に意見を聞くということ自体は、皆さんから同意を得たので、そのように進めていく。そこで出された意見を各委員の中で認識してもらい、答申の際の参考にしてもらえればよい。意見を聞いたからといって、それによって市全体で決めた方針をひっくり返すというような考えを持つ必要はない。

【吉野誠一委員】

市で何を決めたのか。方針ということか。

【松苗正二会長】

方針である。

【吉野誠一委員】

私はトレンドを確認したいだけである。

【岩野所長】

間違った認識を持って意見を聞きに行くとよくないので、補足させていただく。保護者のアンケートについてであるが、保護者のアンケートは保育園、小学校、中学校の3世代を対象に実施している。今の保護者については、安塚区の学校の成績が優秀という点がある程度理解されていると思う。そのうえで、なるべく多くの子どもたちの中で学校生活を送り、社会性等を育み、高校進学時や社会人になった時にぶれることなく生活していける力をつけてほしいという意見が挙がっている。アンケートでは、今のままでよい、中学校だけ統合する、小中一貫校とする、小学校と中学校でそれぞれ統合するというふうにくつかの選択肢を示しており、その中で一番多かったのが中学校を統合するというものであった。保護者の考えはそのような内容であり、現在に至っているということをご承知おきいただきたい。

【吉野誠一委員】

今言われたことはそのとおりであると思うが、地域説明会の開催について、大島区では、少なくとも田麦、大平、大島、菖蒲の4会場で開催してほしいという意見があったようである。それに対して、安塚区では安塚小学校の1会場のみである。出席者は6人、地域協議会委員は私だけであった。これで答申という意思決定をするときにどうするかと心配になったくらいである。自主的審議事項に関する意見交換会の際に住民の皆さんの意向を掴んでおかないと判断できないと思い、提案した。学校統合に関するアンケートの内容の良し悪しの問題ではない。自分が答申という判断をするときにきちんとした材料を持っておかないといけないと思った。

【松苗正二会長】

意見交換会の後に意見を聞くことに決まったので、よろしくお願ひしたい。

そのほか事務局から連絡事項等あるか。

【吉野誠一委員】

本日配布された地域協議会会長と総務常任委員会委員との意見交換会に関する資料について、説明をお願ひしたい。

【萬羽主任】

地域協議会会長と総務常任委員会委員との意見交換会の開催について、説明させていただく。これについては、当初1月22日（土）に開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、延期となっていた。延期後の開催日について、先日連絡があり、4月3日（日）午後2時から開催されることとなった。安塚区地域協議会では、第10回地域協議会の際に意見記入シートの作成を皆さんにお願ひしており、記入シートで寄せられた意見を集約し、参考資料として本日一緒に配布している。意見交換会当日は、ここで挙げられているご意見を参考にしながら、松苗会長に対応いただく。このほかにご意見がある場合は、3月28日（月）までに事務局へお知らせいただきたい。

【松苗正二会長】

ほかに連絡事項等あるか。

【岩野所長】

今シーズンのキューピットバレイスキー場の入込数等について報告。

【吉野誠一委員】

一点お願ひしたい。久比岐野について、ポンプが故障しているとの話を聞いたが、仮

にポンプの交換が必要となった場合、交換用のポンプの在庫は確保しているのか。

【岩野所長】

現在原因を調査しているところであるが、交換用のポンプは既に確保している。原因が判明し、施工が可能になった時点で交換に取りかかる。ポンプの供給については、問題がないので、ご安心いただきたい。

【新保良一委員】

2、3年前に井戸を掘った際、ポンプを購入していなかったか。

【岩野所長】

予備ポンプを購入しており、それを保管している。

【松苗正二会長】

キューピットバレイスキー場の入込数が増加した背景について、具体的な要因があればお願いしたい。

【岩野所長】

1月からツリーランコースというもの設置し、林間やパウダースノーの滑走を楽しむことが可能となり、入込数の増加につながったと考えている。また、昨シーズンに引き続き大人のそり遊びやオールドファッションデー等のスキー場ならではのイベントも実施された。今回は、学校のスキー授業が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となってしまったが、児童・生徒に対してリフト券を配布したことにより、小・中学生の来場の促進につながったとも考えられる。そのほか、3月1日（火）に第2回障害者スキー体験会が開催されている。以上のことを入込数の増加の要因として考えている。営業日数自体は減少し、新型コロナウイルス感染症の感染も広がっている中でこれだけの実績を残せたのは、株式会社スマイルリゾートのお力によるものであると思う。

【松苗正二会長】

承知した。

【吉野誠一委員】

世田谷区から障害者スキーのツアーの申込みがあったが、久比岐野が休止中でキャンセルになったようである。もったいないなと思った。

【松苗正二会長】

ほかに質問等あるか。

（質問なし）

それでは、私の方で4月3日（日）に総務常任委員会委員との意見交換会に参加して

くるので、意見等ある方は3月28日（月）までに事務局へ連絡をお願いしたい。

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

安塚区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-592-2003（内線23）

E-mail：yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。